

ごみの減量化・資源化大作戦

第1回目は『臭くない段ボールコンポスト』と『わが家の取り組み』のご紹介です。

臭くない段ボールコンポストの紹介

市役所では生ごみ処理機購入に際して補助金を出していますが、ここに該当するバケツ式生ごみ処理機を使っていたことがありますが、扱いが難しく、ひどい悪臭が発生したり、ウジ虫がわいたりしてとても苦勞しました。その後、段ボールコンポストなるものを知って使い出したところ、無臭で扱いやすく、15年以上使っています。これは段ボール箱に燻炭とピートモスを入れただけのもので、自動的に微生物の力で生ごみを分解し、堆肥をつくってくれます。

作り方は簡単です。ミカン箱程度の段ボールを用意し、ピートモスと燻炭(ホームセンターに売ってます)を箱に入れてかき混ぜます。この箱を上から虫よけにTシャツなどでかぶせておしまい、これを風通しの良い場所に置きます。

これに台所から出る生ごみをそのまま入れてかき混ぜるだけです。かき混ぜるには長めの木製ヘラが適しています。一度やり始めると半年以上は機能し、いずれは堆肥として利用できます。

詳細はインターネットで「段ボールコンポスト」といれて検索すれば、たくさんヒットしますので参考にしてください。ちなみに名古屋市ホームページにも紹介されていました。

<http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000060262.html>

(常盤町：高橋一紀さん)



わが家の取り組み



- 蓋付きの耐熱ガラス容器におかずを入れることで、ラップが不要。
- なるべく野菜や果物は良く洗って皮ごと調理。皮を剥く野菜や果物は、洗う前に剥いて、生ごみを濡らさない。
- 家においても、マイボトルを使うことでペットボトルが要らないので、プラごみが減らせるし、保冷、保温もできる。

(浜竹四丁目：小松真生さん)

ごみの有料化が始まってごみは本当に減っているのかな？

4月からごみの有料化が始まりましたが、本当にごみは減っているのでしょうか。資源循環課が調べたデータによると、右記のようになっています。令和4年4月の燃やせるごみ重量は、去年4月の重量の76%、燃やせないごみの重量は48%になっています。しかし、燃やせないごみは、参考資料にあるように、有料化に向けて2月・3月に大幅に燃やせないごみが捨てられた影響もあり半分の重量になっています。このようにごみの有料化が始まって1か月ですが、ごみが減量していることがわかります。まだまだごみの減量化の余地がありますので、私たちは、ごみの減量化・資源化に努力していきましょう。そして、松浪地区をきれいにしていきたいと思います。

これからも『ごみの減量化・資源化大作戦』のコーナー

にみなさんのアイデアをお寄せください。お待ちしております。

1年間のごみの重量の増減

年月	燃やせるごみ重量(t)	燃やせないごみ重量(t)
令和3年4月	3310.18	221.05
令和4年4月	2521.51	105.41
1年間の増減	76%	48%

※参考資料

令和4年2月	2,669.16	349.74
令和4年3月	3,528.60	757.51

編集後記

- ★リモート社会が定着しても、ご近所の方と笑顔で挨拶を交わすとき、リアルな地域のつながりはやっぱり心強いしあたたかさも実感します。紙面にもこれから少しずつ各団体からのイベントの報告記事が増えていくことを願っています。(汐見台小学校PTA副会長：萩原)
- ★ゴミの減量化、各家庭さまざまなやり方があると思いますが、皆さんからのアイデア大募集中です。「まつなみだより」が一つのヒントとなり、更なる減量化に繋がりますように。(松浪小学校PTA会長：岡野)

まつなみだより

会長あいさつ

松浪地区まちぢから協議会は5月18日に総会を開催し、新しい運営委員会メンバーのもと令和4年度の活動がスタートしました。総会での審議内容としては、過去2年間松浪地区まちぢから協議会としてさまざまな事業を立案計画していましたが新型コロナウイルス感染症対策の為、何一つ実現できなかった事などが上がりました。今年度は色々計画し地域の皆さんと触れ合える事を願っています。よろしくお願い致します。



総会の様子



令和4年7月1日発行(第26号)
発行：松浪地区まちぢから協議会
HP：https://matunami.jimdo.com/
印刷：(有) 仲手川印刷



松浪地区まちぢから協議会 会長 前田 積

松浪地区まちぢから協議会定期総会を終えて

コロナ禍での開催であり、会場での三密を避け感染防止対策を徹底しました。

総会は1名の委任状、32名の運営委員が出席し、事前渡しの総会資料より令和3年度の松浪地区まちぢから協議会の事業報告、決算報告、松浪自治会館の決算報告、松浪コミュニティセンター・子どもの家なみっこ指定管理業務の事業報告、決算報告について審議され、全会一致で可決されました。

また、令和4年度のまちぢから協議会役員、松浪コミュニティセンター管理運営委員会役員の選任、まちぢから協議会の事業計画案、収支予算案、松浪自治会館の収支予算案、松浪コミュニティセンター・子どもの家なみっこ指定管理業務の事業計画案、収支予算案も審議され、こちらも全会一致で可決されました。

また、例年の通り総会に先立ち、茅ヶ崎市消防団第12分団から活動報告と会計報告がありました。なお、下の写真にもある通り、総会には市民自治推進課より三浦課長をはじめ4名の方々に出席いただきました。

令和4年度 新役員等の報告

松浪地区まちぢから協議会 新運営委員

団体名	新委員
浜竹一丁目自治会	中村 和美
汐見台自治会	藍葉 徹
美住町自治会	石井 義康
松浪地区スポーツ少年団	椎野 直樹
松浪小学校区青少年育成推進協議会	佐藤 敦恵
汐見台小学校PTA	萩原 恭子
松浪小学校PTA	岡野 真理

松浪地区まちぢから協議会 部会長ほか

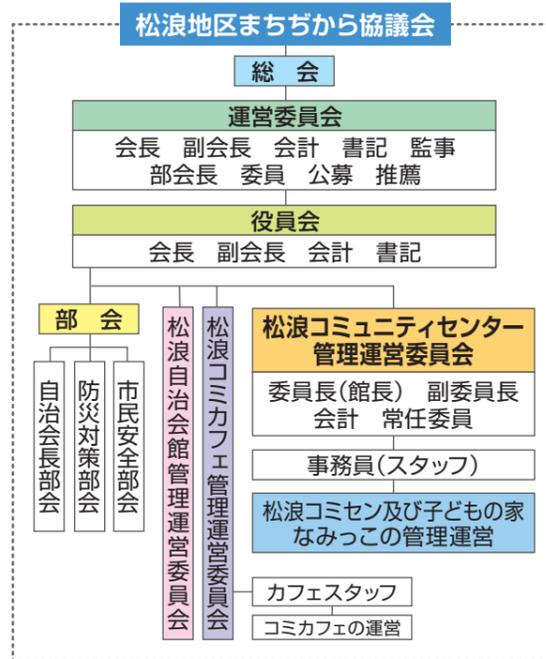
部会名等	役職	氏名
市民安全部会	部会長	白石 壽明
	副部会長	瀧川 一輝
防災対策部会	部会長	辻 俊子
	副部会長	中井 汎
自治会長部会	部会長	渡邊 勇次
松浪コミカフェ委員会	委員長	原屋敷典子
松浪自治会館管理運営委員会	会計	瀧川 一輝

松浪コミュニティセンター管理運営委員会役員

役職	氏名
委員長	前田 積
副委員長	朝岡 通光 原屋敷典子
会計	杉本 誠
常任委員	佐々木 睦子 刈間 昌仁

松浪地区まちぢから協議会 役員

役職	氏名
会長	前田 積
副会長	末松 一豊 朝岡 通光
会計	杉本 誠 刈間 昌仁
書記	佐々木 睦子 刈間 昌仁
監事	森 森恵 小村方 秀勝
	中村 和美 辻 俊子



令和4年度 松浪学区小・中学校 校長先生 / 教頭先生

学校名	校長先生	教頭先生	学校名	校長先生	教頭先生
松浪小学校	安倍 武雄	石川 秀美	松浪中学校	工藤 裕一郎	譜久山 文野
緑が浜小学校	柴田 貴行	村越 さゆり	浜須賀中学校	一星 光利	尾木 左紀子
汐見台小学校	大越 敏孝	井上 亜希			

令和4年度 松浪地区まちぢから協議会関係行事予定一覧

期日	行事	場所	時間	主催等
8月(土曜日)	盆踊り大会・模擬店	松浪小学校	—	体育振興会
9月(土曜日)	松浪地区市民集会	松浪コミュニティセンター	未定	まちぢから協議会
10月(土曜日)	コミセンまつり	松浪コミュニティセンター	—	まちぢから協議会
10月(日曜日)	地区市民体育祭	松浪小学校	—	体育振興会
10月(日曜日)	福祉ふれあいまつり	松浪小学校	—	地区社協
11月(日曜日)	地区防災訓練	各小中学校	未定	まちぢから協議会
1月(土曜日)	賀詞交歓会	松浪コミュニティセンター	17:00	まちぢから協議会
2月(土曜日)	ふれあいネットワーク交流会	松浪コミュニティセンター	13:00	地区社協
2月(水曜日)	視察研修	未定	—	まちぢから協議会

※新型コロナウイルスの影響のため期日未定(例年開催の月及び曜日のみ記載)

松浪朝市

毎月第1・第3日曜日 8:00~9:00 ※1月は年末年始の関係から第3日曜日のみ
場所:松浪コミュニティセンター駐車場

松浪地区さんぽ道 ~松浪小学校誕生物語4・5~ 元松浪小学校教頭 鴨志田 聡



校舎の整備とともに必要になってきたのが運動場づくりでした。松浪小の運動場は、小さな松の木と芝の生えた砂地で、新校舎に移転したにもかかわらず、第一回目の運動会は、松林小学校の校庭を借りて開催されました。「第二回目はぜひ自分たちの運動場でやりたい。」ということから、先生・保護者・それに上級生もいっしょになって運動場づくりが始まりました。



運動場の整備のために集まった保護者



小さな松はていねいに抜き、今の体育館の辺りに植え替え、芝も抜きました。アスガラ(アスファルト撤去のときに発生する残骸)をみんなで運び校庭に敷きました。アスガラの中には釘が入っているので、子どもたちがけがをしないよう小さな磁石でていねいに拾い、釘は廃品回収に出しました。運動場を平らにするため、みんなで踏みならしました。こうして第二回目からの運動会は、自分たちの運動場で開かれるようになりました。

(参考資料:平成8年PTA広報誌特集「松浪小学校の生い立ちとあゆみ」)



前回、松浪小校舎正面玄関わきの四角い大石についてお話しましたが、その右側にもうひとつの大石が置かれているのをご存じでしょうか。形は先が丸みを帯びており、よく見ると「寄贈 大石二個 昭和廿五年二月 大八木商店」と刻まれています。「廿五」とは昔の漢数字表記で「三十五」を表し、昭和35年(1960)の寄贈されたこととなります。寄贈された石は「二個」とあるので、もう一個同じ石があったはずですが、この大石が寄贈された事情やどこに置かれ、どのような目的で使われていたのか、まったくわかりませんでした。

今、置かれている状態では表面に寄贈者と寄贈年月日が刻まれているようですが、使われていたときには寄贈者名のある側がこの大石の裏

面であった可能性が高いと思われます。旧神戸銀行社員寮の仮教室のくつ脱ぎ石が足りなくて寄贈されたのか、校庭の庭石として寄贈されたのか、記録が残っていないので松浪小の「謎の大石」です。ひっくり返して、反対側に文字などの手がかりとなるものが見つければいいのですが、あの大きさでは不可能です。

ただ、「大八木商店」と寄贈者がわかっていることは大きな手がかりになりました。茅ヶ崎市の明細地図(昭和56年版)で「大八木商店」の場所を見つけることができ、さらに松浪小に別家の大八木家出身の若い先生がいられたことから、お母様にお尋ねしながら少しずつ大八木商店のことがわかってきました。「寄贈 大石二個」にどこまで迫れるか、次回をお楽しみに!

